

平成29年(2017年)7月9日(日)説明会での質疑応答について

No.	質問	回答
1	<p>通学距離だけでなく、安全確保の観点からもスクールバスを望む声があったと思う。その点はどのように考えているのか。</p>	<p>P.13「第4章 1.通学の安全確保」にも記載しておりますように、登下校時の安全確保は重要な観点と認識しています。計画策定後、歩道の整備や信号、横断歩道の設置等、ハード面の整備について、関係部局、関係機関等と、より具体的に協議していきたいと考えております。また、登下校時の見守りやICTの活用など、ソフト面の対策についても合わせて検討を進めていきたいと考えております。</p>
2	<p>庄内小学校敷地に(仮称)北校を、第六中学校敷地に(仮称)南部コラボセンターを整備することだが、庄内小学校は敷地が狭い。プールを屋上に整備する案も示されたが、とても危険である。また、低学年の遊び場をつくることだが、子どもたちが細々と学校で生活しなければならないのではないか。</p>	<p>(仮称)南部コラボセンターは、公民館、図書館、出張所、保健センター等が集約され、魅力創出や地域活性化等の効果が期待される複合・多機能型施設であり、庄内地域の中心部に整備することが求められています。また、幅員8.9m道路に接道し、車でのアクセスの便がよいこと、さらに庄内小学校、第六中学校の敷地で工事を行う際に、奥側の庄内小学校敷地から手前の第六中学校敷地という順番で工事せざるを得ないことなど、総合的に検討した結果、庄内小学校の敷地に(仮称)北校の校舎等を、第六中学校の敷地北側に(仮称)南部コラボセンターを、その南側には(仮称)北校の運動場を整備するという案に至っています。また、昨年11月の構想案において、施設一体型小中一貫校の教室等の配置の一例をお示ししましたが、これはボリュームチェックのために作成したものであり、実際の教室配置等については、計画策定後、基本設計において検討を進めていくこととなります。その際には、P.10「第2章 4.施設面の工夫・特色等」に記載しているとおり、幅広い年齢の児童生徒が安全、快適に過ごせるように、工夫を凝らしたいと考えております。</p> <p>ちなみに、大池小学校のプールは屋上に設置していますが、安全対策を講じており、これまで問題なく運用しております。</p>
3	<p>プールを屋上に整備する案について、巨大地震で亀裂が生じ、水漏れしたという実例もある。本当に大丈夫なのか。</p>	<p>昨年11月の構想案において、施設一体型小中一貫校の教室等の配置の一例をお示ししましたが、これはボリュームチェックのために作成したものであり、実際の教室配置等については、計画策定後、基本設計において検討を進めていくこととなります。</p>

平成29年(2017年)7月9日(日)説明会での質疑応答について

No.	質問	回答
4	<p>工事期間中の学校のあり方について、小学校2校が同じ場所に同居すれば、子どもたちがとまどったり、意識すぎたりしないのか。</p>	<p>昨年11月の構想案では、工事期間中、小学校3校を統合して新たな学校を仮開校することを提案しましたが、島田小学校の保護者等からいただいたご意見を踏まえ、工事が完了する平成33年度(2021年度)末まで島田小学校を継続して運営する、小学校3校とも閉校の時期を揃えることで平成34年度(2022年度)一斉にスタートを切ることができる、野田小学校の敷地に小学校3校の児童が集まれば教室不足となり、プレハブ校舎を新たに整備する必要がある、といったことを考慮し、計画原案P.11「第3章 1.(2)工事期間中の学校のあり方」に記載しており、野田小学校の敷地に庄内小学校を移設する案に変更いたしました。同居する小学校2校、さらには島田小学校も加え、平成34年度(2022年度)の(仮称)北校開校に向けて、教育活動等の工夫により、多様な人間関係を構築できるものと考えております。</p> <p>なお、具体的には庄内地域の小・中学校の教職員等による「魅力ある学校づくり推進委員会」において検討を進めていくこととなります。</p>
5	<p>稲津町には、野田小学校に通う児童が多いが、ある年から急に豊島小学校に転校させるようなことになるのか。</p>	<p>これまで通学区域を変更する際に、例えば在校生やその弟妹の指定校変更を認めており、今回もそのような経過措置が必要と考えております。</p>
6	<p>小中一貫校の設計はいつごろ出されるのか。</p>	<p>あくまで想定ですが、計画策定後、基本設計等の委託業務を発注することになります。業者が決まれば、例えば教職員対象や地域住民対象のワークショップなどを行いながら校舎等の設計を進めていくこととなります。設計の進捗状況に応じて、適宜、案をお示しし、ご意見を伺いながら検討を進め、平成30年度(2018年度)末には基本設計が固まるものと考えております。</p>
7	<p>昨年11月の構想案の資料に掲載されていた施設一体型小中一貫校の例は、昨年度の委託業務において作成されたものであり、先日、開示請求し、ようやく図面等を見ることができた。なぜ、昨年度作成した図面を提示しないのか。その理由を示してほしい。</p>	<p>昨年度の委託業務は、あくまで施設面のボリュームチェックであり、設計業務ではありません。しかしながら、もう設計が終わっている、図面どおりの校舎が建つとの誤解が生じており、このような状況の中でボリュームチェックのための図面を提示すれば、資料が独り歩きして、さらに誤解が広まる恐れがあると判断し、このたびの意見公募手続での提示を控えていただきました。</p>
8	<p>義務教育学校になれば6年修了時の卒業式はなくなるという理解でよいか。</p>	<p>卒業式は9年生修了時に行うこととなりますが、例えば6年生修了時に「前期課程修了式」を行ったり、あるいはステージごとに節目の式を行ったりするなど、子どもたちが成長を実感できる行事等の設定が可能と考えております。なお、具体的には、庄内地域の小・中学校の教職員等で構成する「魅力ある学校づくり推進委員会」で検討することとしております。</p>

平成29年(2017年)7月9日(日)説明会での質疑応答について

No.	質問	回答
9	児童生徒数が1,000人を超える小・中学校は全体の1%にも満たない。そのような大規模な学校をなぜつくろうとするのか。	児童生徒数を見れば1,000人規模ですが、各学年とも3～4学級なので、標準的な規模であると認識しています。
10	WHO(世界保健機関)は、100人を上回らない学校規模を勧告している。また、学校・学級の規模と教育効果の関係についての論文も出ていると思うが、どのような内容か、教えてほしい。	庄内地域の小・中学校は小規模化が進行し、人間関係の固定化や教育活動の制約などの課題が顕著になっています。教育委員会といたしましては、学校再編により一定規模を確保したうえで、教育活動等の工夫により、課題を解消するとともに、教育内容の質的充実を図れるものと考えております。今回の計画原案は、庄内地域の実情を踏まえて検討し、効果が得られると考えてお示したものです。
11	(仮称)北校は庄内小学校の敷地に整備することだが、狭い中で、子どもたちは本当にのびのび、いきいきした生活ができるのか。	P.10「第2章 4.施設面の工夫・特色等」にも記載しておりますように、幅広い年齢の児童生徒が安全、快適に学校生活を過ごせるように、施設・設備面の工夫を凝らす必要があると考えております。具体的には、計画策定後、基本設計において検討を進めていくこととなります。
12	学校再編により通学距離が伸び、交通事故や犯罪の危険性が高まる恐れがある。(仮称)南部コラボセンターができれば車や自転車の交通量が増え、危険性がさらに高まる。その点はどのように考えているのか。	計画策定直後から(仮称)北校開校までの間、ハード、ソフト両面から安全対策を講じていきたいと考えております。(仮称)南部コラボセンターの利用者の動線と、子どもたちの登下校時の動線を考えて、校舎等の設計や通学路の設定などを行いたいと考えております。
13	小中一貫校になれば、例えば中学生の先輩の悪いところを小学生が真似したり、グループに引き込まれたりして、問題行動の低年齢化が懸念されるが、その点はどのように考えているのか。	文部科学省の「小中一貫教育等についての実態調査の結果」によりますと、小中一貫教育の成果として、「規範意識の高まり」や「上級生が下級生の手本となろうとする意識の高まり」「下級生に上級生への憧れの気持ちの強まり」などが挙げられており、中長期的には大きな効果が得られるものと考えております。しかし、ご指摘のような懸念もあることから、教職員の追加配置に加え、地域の方々をはじめ、さまざまな立場の大人たちが関わることで子どもたちの学びや育ちを支えていきたいと考えております。
14	学校再編で学校がなくなれば、地域コミュニティの活動場所や防災上の拠点施設がなくなってしまう。この点について、どのように考えているのか。	学校としての機能が失われたとしても、地域コミュニティや防災等の機能まで喪失するわけではないと考えております。学校跡地につきまして、まず地域コミュニティ活動を優先し、次に庄内地域のまちづくり、さらには本市のまちづくりに資する利活用を検討することとしております。

平成29年(2017年)7月9日(日)説明会での質疑応答について

No.	質問	回答
15	<p>今回の計画原案を見ると、一つの案しか示されず、その案に対しての意見しか言えないが、そうではなくて、複数案を提示し、さらに意見を聞きながらより良い案をつくっていくべきではないか。このような決め方がよいとは思わない。もっと我々の意見を反映すべきである。</p>	<p>構想案の段階では、ご指摘のように意見交換を重ねながら、より良い案を検討してきましたが、今回は計画策定に向けた意見募集という段階に進んでおります。今回、いただいたご意見をもとに、必要に応じて修正等を行い、最終的には教育委員会会議に諮り、計画を策定することとしております。計画策定後、例えば新たな学校を設置する際には学校設置条例の改正が必要ですし、校舎等を整備するには設計、工事等に係る経費を予算措置しなければなりません。その都度、条例案や予算案を、市民の代表が集まる市議会においてご審議いただくこととなります。さまざまなタイミングで、さまざまな方が関わり、庄内地域の子どもたちの教育環境が整えられることとなります。</p>
16	<p>平成12年(2000年)策定の「余裕教室活用計画」に沿って事業が実施されてきたはずだが、今回の学校再編で当該計画は無効化したのか。</p>	<p>余裕教室活用計画は、少子化等で使用していない教室を有効に活用するための計画であり、「魅力ある学校」の教育環境が整い、余裕教室がなくなれば、余裕教室活用計画の対象外になるものと考えております。</p>
17	<p>今回、教育だけでなく、様々な分野の計画、事業等を通じて子どもを増やす方向で取り組まれていると思うが、大阪市の一部地域のように子どもの数が爆発的に増加する可能性もある。その場合、どのように対応するのか、考えを聞きたい。</p>	<p>子どもの増加という事態も想定し、各学年5学級までは対応できるように留意して設計したいと考えております。将来において、それ以上の規模が見込まれる場合には、地域活動拠点として利活用されるであろう学校跡地に新たな学校を整備することも考えられます。</p>
18	<p>今回の学校再編で母校がなくなるという声を数多く聞いている。このような声に対してどうするつもりか、考えを聞きたい。</p>	<p>今回閉校することになる2中3小の思い出の品々、例えば校旗や看板、石碑の一部などを新たな学校の校舎内に展示したり、敷地内に移設したりすることで顕彰できるものと考えております。また、かつての学校を懐かしく思われる卒業生の皆さんが気軽に立ち寄ることができる学校を創っていきたいと考えております。</p>
19	<p>資料編8ページ、資料14の「小中一貫教育の課題」を見ると、教職員の負担に関するものが多い。このような課題について、どのように考えているのか。</p>	<p>資料14は、文部科学省の「小中一貫教育等についての実態調査の結果」から抜粋したのですが、回答数1,130件のうち約8割が施設分離型であり、物理的要因による課題が多いものと認識しております。本計画では、施設一体型の義務教育学校を想定しており、施設面の工夫等により対応できるものと考えております。</p>
20	<p>P.1「はじめに 2.庄内地域の小・中学校の課題」に「家庭事情を背景とした生活・学習課題に直面している子どもたちが多い」と記載されているが、その課題を解消する方法として大規模な学校や、義務教育学校をつくることにつながるのか、理解できない。</p>	<p>本計画では、一定規模の確保に加え、義務教育9年間を見通した教育内容の質的充実や、放課後、休日の居場所づくり、学習支援など総合的に教育環境を整え、生活・学習課題を解消したいと考えております。</p>

平成29年(2017年)7月9日(日)説明会での質疑応答について

No.	質問	回答
21	庄内地域の学校に勤めていた経験があり、少人数の学級は指導しやすくて良かった。ぜひ現場の教員の話も聞いてもらいたい。	ある一場面だけ見れば少人数の良さもありますが、人間関係の固定化や教育活動の制約など課題も多く、一定の規模を確保する必要があると考えております。なお、具体的には、庄内地域の小・中学校の教職員等で構成する「魅力ある学校づくり推進委員会」で検討することとしております。
22	この事業の予算規模をどのくらいと想定しているのか。	昨年度の委託業務において、施設面のボリュームチェックは行いましたが、設計等は今後の検討であり、現時点において事業経費等は算出しておりません。
23	放課後子どもクラブについて、義務教育学校になっても、これまでと同様の質の高い運営を行うのか。	質的にこれまでと同様の運営を行いたいと考えております。